

侵入防止柵点検マニュアル



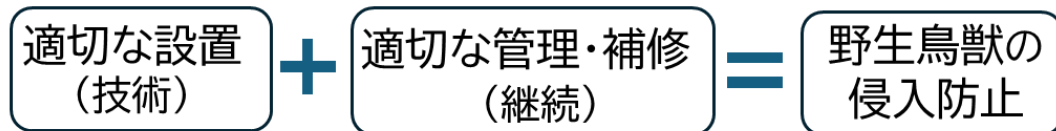
令和8年3月19日
長野県上伊那農業農村支援センター

1 はじめに

近年、高齢化による狩猟者の減少や遊休農地の増加などにより野生動物による農作物の食害が増加傾向にあり、農業経営に大きな影響を与えています。

その対策として、各市町村協議会により野生鳥獣侵入防止柵が導入されていますが、本来の効果を最大限発揮するためには「適切な管理」が非常に重要となってきます。

そこで、侵入防止柵点検のポイントを紹介しますのでご活用ください。



2 点検の必要性

(1) 電気柵

電気柵は動物が電線に触れることで感電し、痛みを与える事により心理的な学習をさせることを目的とした設備です。しかし、適切に管理されていない電気柵が集落に存在すると「これは触れても大丈夫」と良くない学習をしてしまいます。そのような個体は電気柵を恐れなくなり、農作物を加害する個体になる可能性が高まります。

比較的安価に導入できますが、周辺環境の管理（除草、電圧チェック）が頻繁に必要であり、管理がなされていないと効果が発揮されません。

そのため、集落単位で電気柵の管理を徹底することが重要です。

(2) 金属柵

金属柵はワイヤーメッシュ柵などを用い、侵入してほしくない場所に設置することで、物理的に野生鳥獣の侵入を防ぐことを目的とした設備です。物理的に侵入を防ぐため、期待される効果も高いですが、倒木や動物等による破損が発生すると効果が著しく低下します。また、電気柵ほどの頻繁な管理を必要としない代わりに、設置に時間がかかり、補修費用にも手間がかかります。

また、山間部の人が入りにくい場所に設置することが多く、破損に気づきづらいため、定期的に点検を行うことが重要です。

3 侵入防止柵点検の手順とポイント

別紙「侵入防止柵点検マニュアル」を活用して点検活動を行いましょう。侵入防止効果を維持するためには、2～3週間に1回の点検活動が必要です。

(1) 侵入防止柵の点検の手順とポイント

- ①複数人のメンバーで柵に沿って歩き、柵の破損箇所や不備、藪の繁茂状況、柵の外から柵の内側に向かって伸びる木の枝の有無、野生動物の痕跡などを点検してまわります。
- ②補修が必要な個所にカラーテープ等で目印をつけ、他人が見てもわかるようにします。
- ③目印を付けた場所を集落の地図に落とし込み、チームで共有します。なお、破損程度や要因も記録しておくことより効率的です。
- ④点検の記録をもとにチームで相談し、補修の方針を検討します。

⑤破損程度に応じた必要な資材を用意し、補修を行います。

⑥次回の点検時に前回の補修箇所の状況を確認し、効果を確認します。

※定期的に侵入防止柵の周辺の草刈りを行うことで日々の管理を安全に行うことができ、動物が近付きにくい環境づくりが出来ます。

◎ 破損等の例



①柵の下部をくぐった跡痕跡



②シカ等により上部が破損



③侵入防止柵の上部にかかる枝

(2) 電気柵の点検の手順とポイント

①毎週、電圧チェッカーで電圧を確認し、5000V 以上あることを確認します。

電圧の低下が確認される場合、断線や漏電の可能性が考えられるため周辺環境を確認し、原因を特定します。

電圧が下がる原因：雑草、倒木による漏電、アース設置不良、バッテリーの不良等

②原因を解決したら再度電圧を測定し、5000V 以上であることを確認します。

※人の気配がない場所では昼でも野生動物が出没するため、24 時間 365 日通電させることが重要です。

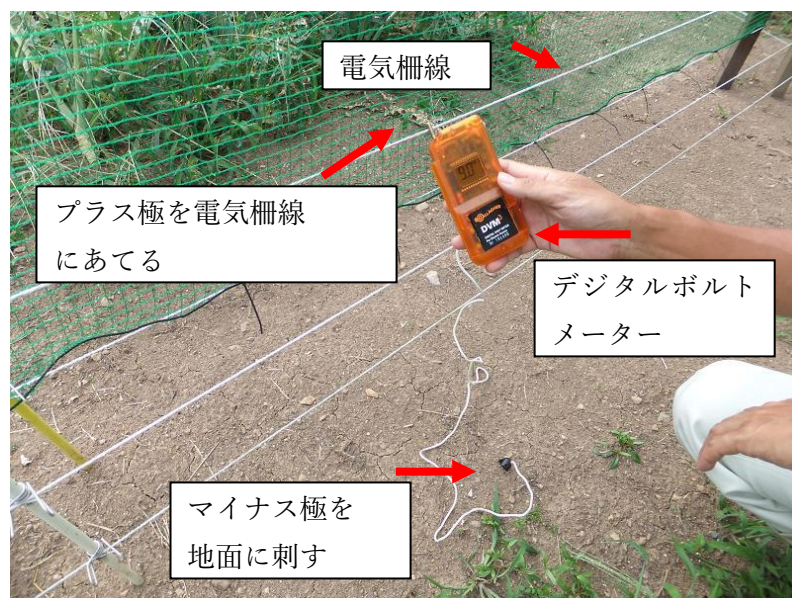


図1 電気柵線の電圧を測定

○破損等の例



①電気柵周辺の雑草繁茂



②鳥獣等により破損した柵



③イノシシ等による掘り起し

4 野生鳥獣の被害を増やさないためのポイント

野生鳥獣の侵入を防ぐことに意識が向きがちですが、同時に重要なことがもう一つあります。それは「集落に野生鳥獣が来ない環境づくり」です。基本的なことですが、以下ポイントに注意してください。

(1) 「無意識の餌付け」の防止

生育途中の農作物と違い、廃果や稲刈り後の2番穂（ひこばえ）などを野生鳥獣が採食をしても問題にしていない場合が多いのではないのでしょうか。しかし、これらは野生鳥獣にとって重要な餌であるとともに、「ここに来れば餌を食べられる」といった良くない学習を助長します。このような集落に存在する無意識の餌付けを減らすことが被害軽減につながります。

(2) 野生鳥獣が出没しにくい環境づくり

動物は餌があり、人目の付かない場所を好みます。ほ場の周辺にそのような場所を減らすことで動物が近づきにくい環境づくりを目指しましょう。

離農した方の遊休農地、放置された竹やぶなどは動物にとって目隠しと餌場の合わさった都合の良い場所です。このような場所も含めて侵入防止柵で囲むように意識しましょう。

「集落に野生動物が来ない環境づくり」のポイント

○動物の習性等の把握

- ・原因となっている動物が何かしっかりと確認しましょう（足跡、食害状況、フンなど）
- ・原因となっている動物の習性を把握しましょう（性格、好きな食べ物・場所など）
- ・野生動物は対策に慣れると恐れなくなることを意識しましょう。

○動物を近づけない環境整備

- ・除草を行い、農地や生活環境の草むらなど動物が隠れる場所を減らしましょう。
- ・収穫しない果実、野菜をそのまま放置すると動物を呼び込んでしまうため注意しましょう。
- ・稲刈り後の2番穂（ひこばえ）が生えないように秋起こしを行いましょう。

別紙 侵入防止柵点検チェックシート

点検日 年 月 日
 集落名

項目	確認事項	はい	いいえ	
農作物を守る（防護対策）	ワイヤーメッシュ柵	① 果樹園において、枝が侵入防止柵から外にはみ出していない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		② 支柱は50cm以上打ち込んで、簡単に動かないように設置している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		③ 柵の表裏を間違わずに設置している（縦のワイヤーが外側（鳥獣側）にある）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		④ 支柱と柵は地上最下部、上部、その中間でしっかりと結束している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑤ 場所や傾斜に合わせて、柵を隙間なく設置している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑥ ゲート部は使用時以外は必ず閉め、開けっ放しにしない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	電気柵	⑦ 支柱間隔は4m以下として、電線にたるみが無いよう設置している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑧ 凹凸部や傾斜部は地面との隙間が出来ないように支柱を設置している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑨ 電線の高さは対象鳥獣に合わせたものとなっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑩ 電気柵の設置中は昼夜を問わず、24時間電気を流し続けている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑪ 電気柵は野生動物に恐怖を与えて、侵入を防ぐ柵である認識を持っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑫ 柵のすぐ外側の地面が通電しない素材となっていない（アスファルト等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑬ 定期的に電圧を測定して、漏電確認を行っている（目安5000V以上）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	管理について	⑭ 侵入防止柵の周辺の除草を定期的に行っている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑮ 侵入防止柵に切れ目（水路、地面のくぼみ、破損箇所等）が無いことを確認している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑯ 定期的に柵を点検し、破損箇所はすぐに修理している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		⑰ 点検、修理は個人ごとではなく、集落で計画的に実施している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- 「いいえ」にチェックが付いた項目は、少しずつ改善していきましょう。
- 「どのように対策すればよいか分からない」など不明点はお気軽にお問い合わせください。
- 「集落点検（鳥獣が集落に來ない環境づくり）」も侵入防止柵の点検と合わせて行うと効果的です。